

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

2021 AUTUMN 182

この秋も、巣ごもりオーディオ三昧、

土方久明監修

スピーカーを 10万円で 買う!



サブスクから
レコード、CDまで
いい音で音楽を楽しもう!

9人の評論家が自作する

電源ケーブル 選手権2021



AA誌の注目記事は
WEBでも楽しめます!

老舗ブランドの新シリーズが 人気のスピーカー3モデルに挑戦!

Text by
井上千岳
Chitake Inoue

Photo by 田代法生



イギリスの老舗ブランドCREEK (クリーク)から登場した新シリーズ「Voyage (ヴォヤージュ)」。本誌180号掲載の試聴レポートをご覧いただいた方も多いただろう。今回は、新シリーズのCDプレーヤーとプリメインアンプのペアが、タイプの異なるスピーカーシステムをどのように鳴らすのかに注目してのレポートをお届けする。

Specifications

<Voyage CD> ●DACタイプ:VELVET SOUNDテクノロジー AK4493EQ プレミアム AKM 32bit 768kHz ●CDメカ:Stream Unlimited CD80 slot drive ●デジタルフィルター:6×32bit、8-foldデジタルフィルター ●SN比:123dB ●THD + Noise:113dB ●出力インピーダンス:100Ω ●アナログバッファ:オペアンプ / OPA2134 ●RCバス:IN / IRセンサー、OUT / Voyage i20 ●電源電圧:85~265V AC、50~60Hz、自動対応 ●消費電力:通常 20W、スタンバイ 0.5W (自動スタンバイ 30分後) ●サイズ:430W×80H×350Dmm ●質量:6.8kg

<Voyage i20> ●出力(@ 1% THD):120W / ch(8Ω)、240W / ch(4Ω)、480W / ch(2Ω) ●最大供給電力:±26A / 0.5Ω 100ms ●THD + Noise:<0.002% (20Hz~20kHz @ 2/3負荷8Ω) ●SN比:>102dB ●周波数特性:1Hz~100kHz ±2dB ●パワーアンプ利得:33.4dB (×47) ●DCオフセット:<±5mV ●クロストーク:-80dB / 1kHz ●プリアンプ利得:0dB (×1) default ●プリアンプ利得:3dB、6dB、9dB、12dB ●入力感度:659mV (120W / 8Ω) ●入力インピーダンス:100Ω ●デジタル入力:2×S/PDIF同軸 (192kHz、24bit)、2×TOSLINK光 (192kHz、24bit)、USB class 2 (PCM/384kHz、32bit、DSD 64&128、Bluetooth/aptX HD) ●DAC特性:PCM 768kHz、32bit DSD 22.4MHz ●ヘッドフォン出力:6.3mmステレオジャック ●RCバス:IN / IRセンサー、OUT / Voyage CD ●スピーカー出力インピーダンス:<0.02Ω / 20Hz~20kHz (ダンピングファクター:>400) ●消費電力:通常 20W、最大 600W、スタンバイ 0.5W (自動スタンバイ 30分後) ●サイズ:430W×80H×350Dmm ●質量:9kg

●取り扱い:(株)ハイファイ・ジャパン

CREEK

Voyage CD

CDプレーヤー

¥385,000 (税込)

Voyage i20

プリメインアンプ

¥704,000 (税込)



再現力に焦点を当てて
その実力を掘り下げる

Voyageシリーズについては前々号(180号)で紹介した。ハイレゾ対応を全面的に進めて新機軸を打ち出したのが大きな特徴だが、本当はそれだけに留まる製品ではない。今回ははるかに重量級で高額なハイエンド機に比べてもまったく遜色のない再現力に焦点を当てて、その実力を掘り下げることにしたい。

概要については以前に触れているので繰り返すことはしない。ただ音質に深く関係すると思われる部分だけを、もう一度クローズアップしておくことにする。

ひとつは電源。両機とも新開発

独自のスイッチング電源を搭載しているが、電源の電圧その他の条件に関わらず安定した供給が可能だという。このためダンピングファクターが向上し、スピーカークラスに正確に比例した出力を得ることができる。これが今回の大きなポイントである。

もうひとつはアンプの増幅回路で、これは以前からだが、クラスGという独特の方式を採用している。入出力に応じて瞬時にバイアスを切り替えることで、A級とA/B級を効率的に活用することが可能だ。また出力トランジスタはサンケン製だが、MOS FETをマルチで使用したドライバーによって強力な駆動力を得ている。以上が技術的な核心である。

さて今回は少しずつ特徴のことなる3種のスピーカークラスを鳴らしてみることになった。第一はピエガの野心的な新製品Ace 50。第二はダイナウデオのコンセプト・モデルHeritage Special、そして第三に人気のB&W 702S2 Signature。それぞれの特徴は各自確認いただくとして早速始めたい。

●PIEGA/Ace 50
リポントウイーターから
自然な再現を引き出す

Ace 50はベーシックなトールボーイ型だが、独自のリポントウイーターを搭載している。その再現の方向性が合っているのか、非常に自然な出方をするのが印象的だ。鳴らす方と鳴らされる方の呼吸に乱れがなく、位相やレンジがびつたり揃っている。

バロックは繊細で瑞々しい手触りがこれ以上ないほどきめ細かく描き出され、独奏オーボエが自然に浮かび上がって弦楽アンサンブルとの対比もナチュラルだ。

ピアノは何でもないようにひとりでに音楽が流れ出てくるイメージだ。どこにも引掛かりがなく、さらさらと動いて澁みがない。タッチは明確で芯がきちんと備わり、中・低域にも肉質感がしっかりと乗っているが、それでもなお軽やかにデリケートな感触は溢れるくらいに豊かである。

マドリガルはさらに音場の遠近が明瞭で、音楽全体が生き生きとしている。声の表現がきめ細かく響きが柔らかな豊かさに満ちているが、基本的にノイズがほとんど皆無に近いくらいなのが利いているし、それぞれの音に焦点が合っ

組み合わせたスピーカーシステム



Bowers & Wilkins 702S2 Signature

¥364,100(1台/税込)

●型式:3ウェイ バスレフ型 ●ユニット:25mmトウイーター×1、150mmミッドレンジ×3、165mmウーファー×1 ●周波数特性:28Hz~33kHz(-6dB) ●感度:90dB(1m/2.83Vrms) ●インピーダンス:8Ω(最小3.1Ω) ●推奨アンプ出力:30~300W ●サイズ:200W×1,087H×337Dmm ●質量:29.5kg ●取り扱い:(株)ディーアンドエムホールディングス



DYNAUDIO Heritage Special

¥1,023,000(ペア/税込、9月からの新価格)

*世界限定2,500ペアの販売生産モデル

●型式:2ウェイ リアバスレフ型 ●感度:85dB(2.83V/1m) ●許容入力:200W ●インピーダンス:4Ω ●周波数特性(±3dB):42Hz~23kHz ●ユニット:ウーファー 18cm MSPコーン、トウイーター 28mm Esotar3 ●クロスオーバー周波数:2.2kHz ●クロスオーバー特性:1次 ●サイズ:208W×385H×320(グリル装着時337)Dmm ●質量:11kg ●取り扱い:(株)DYNAUDIO JAPAN(株)



PIEGA Ace 50

¥363,000(シルバー、ペア/税込)

¥385,000(ブラックおよびホワイト、ペア/税込、受注生産)

●構成:3ウェイ バスレフ型 ●推奨アンプ出力:20~150W ●能率:90dB/W/m ●インピーダンス:4Ω ●再生周波数特性:45Hz~40kHz ●ユニット:AMT-1リポントウイーター×1、12cm MDSコーンウーファー×1、12cm MDS-Bコーンウーファー×2 ●クロスオーバー周波数:200Hz/4kHz ●サイズ:140W×1,040H×160Dmm(ボトムプレート:250mmφ) ●質量:12kg ●取り扱い:(有)フェーレンコーディネート

駆動力が無色透明で徹底的に正確 胸の空くような再現力である

ものささを感じさせる。瞬発力が強力です。トウツテイの峻烈さと壮麗さにも不足はないが、暴れることなく常に滑らかで流れがいい。緩徐部分の大きな表現など、目の前にオーケストラが見えてくるような感触さを持つている。

● DYNAUDIO/Heritage Special
**表現の幅の広さを
明快に引き出している**

最先端ユニットを古典的なキャビネットに搭載した、遊び心も感じさせるユニークな製品だ。大変レンジが広く、一音一音が鮮烈さに溢れた再現をする。

パロックでは音数の豊かさが際立ち、独奏オーボエの後ろ側で弦楽アンサンブルが細かな動きを見せる。それが大変くつきりとまた緻密に聴こえるのである。

ピアノでは曲想のひっそりとした感覚が倍加したように、陰影の深い再現になっている。表現の幅の広さ、をクリークが意外なほど明快に引き出しているのが印象的だ。アンプの自己主張がなく、スピーカーが思いのままに鳴っている

ような自然さが目覚ましい。

マドリガルでは静かさがなによりもはっきり感じられ、空間の響きがより広々と聴こえてくる。スピーカーの表現力を非常にしっかりと支えているのが分かる。このアンプにこれだけの底力があるのは、初めて見たように思う。聴けば聴くほど充実を感じる。

オーケストラは比類なく立派で、力強いが暴れも荒れもなく壮麗無比というイメージだ。一音一音の彫りが深く、緩徐部分では滑らかな起伏が大きい。エネルギーの供給と駆動力の高さを実感する。

● Bowers & Wilkins 702S2 Signature
**スピーカーの正確さに
まったく無理なく対応**

3ウーファー3ウェイというシリーズのフラッグシップ。鮮やかさの際立つ鳴り方だ。音数が豊富で色彩も鮮烈。上下に抜けがよく、デリケートなディテールも明瞭に引き出して遜色がない。

パロックは全てが歯切れのいい瞬発力に富んだ出方を見せる。音色が非常に純粋で濁りがなく、

瑞々しさがはちきれようだ。

ピアノも輪郭の明快なタッチと豊かな余韻がとみにくつきりと描き出されて、隅々まで明るく照らし出したような明度の高さを感じる。表情の細かな凹凸にも曖昧さがなく、豪華でリッチな再現だ。

マドリガルは勢いがよく、どんな細かなところも描き尽くしてしまふような情報量の確かさがある。スピーカーの正確さがよく表れた再現と言っているが、そうした要求にまったく無理なく対応しているのが見事と言わなければならない。

オーケストラも自在な鳴り方で、豪快な響きだが決して一線から外れることはなく、弦楽器の厚いハーモニーと調和して目覚ましいことこのうえない。瞬発力の強力は無類と言えらるほどだ。意外なマツチングに目を瞭る思いがする。

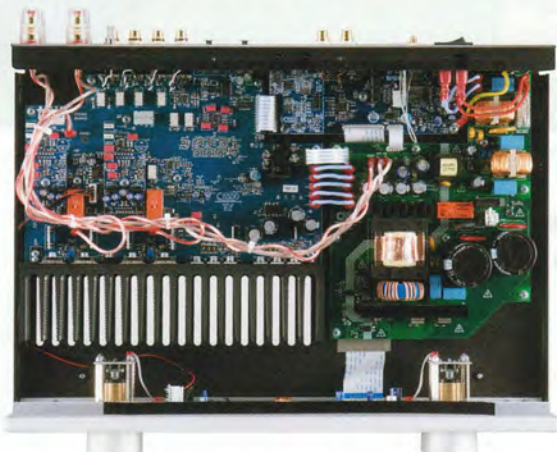
本質的に駆動力が無色透明で、徹底的に正確なのだ。どんなスピーカーにも最適に対応をする。力任せではない、技ありと言いたくなる胸の空くような再現力である。



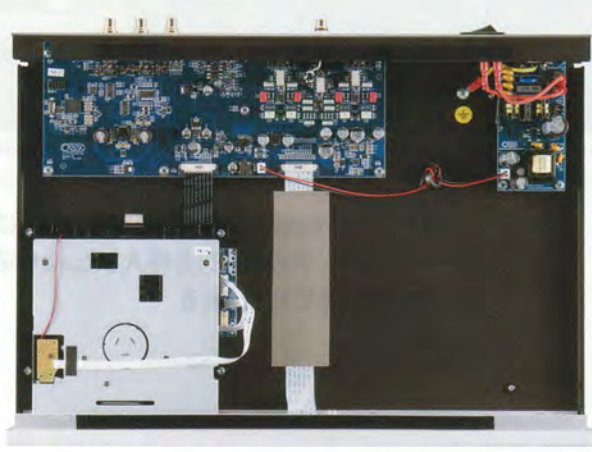
Voyage i20のアナログ入力端子はRCA×3とXLR×1。スピーカー出力は1系統。デジタル入力にはRCA同軸と光TOS各2系統とUSB Type Bを1系統、さらにBluetoothを1系統を持つ。設定により、プリアンプ部をバイパスして、パワーアンプとして使用することもできる多様性も本機の特徴である



Voyage CDのリアパネル。アナログ出力端子はRCAとXLR各1系統。デジタル入力にはRCA同軸と光TOS各2系統とUSB Type Bを1系統持つ。デジタル出力はRCA同軸と光TOS各1系統。VARIABLE OUTPUTスイッチをONにすると、リモコンでのボリューム調整が可能となる



Voyage i20の内部。MM用フォノカードSEQUEL-MK4(¥38,500/税込)を追加し、アナログ再生に対応させることができる



Voyage CDの内部。ドライブメカを前方においたシンプルな構成である

CREEK

VOYAGE SERIES

Creek has made an excellent entry into the premium class.



培ってきた伝統に最新技術を融合させた、英国老舗ブランド「クリーク」の新機軸ヴォヤージュシリーズ

Voyage CD - CD Player + DAC ¥385,000(税込)
Voyage i20 - Integrated Amplifier + DAC ¥704,000(税込)

Creek Audio

Proudly designed in the U.K. and made in Europe.

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233
www.creekaudio.com / www.hifijapan.co.jp